

# 幼児の造形教育に関する研究

— 3才児の造形活動12ヶ月 —

吉 馴 さ と み

## I 問題の所在

絵をかいたり、紙を切ったり、折ったり、砂や粘土あそび、積木やブロック等の構成あそびは幼児の大好きなものである。幼児のこういった活動は、幼児の話したいことや、内にあるものを表現しようとする「ことば」であるとともに、幼児が与えられたもので何か新しいものをつくり出す働きである。とくに幼児期においては心身のいちじるしい発達にともなって、その造形活動も変化してゆく。そこで、幼児期には造形活動としてどのようなことをするのか、まず、幼稚園教育要領において、絵画制作の内容として示されたねらいをあげると次のとおりである。

1. のびのびと絵をかいたり、ものを作ったりして表現の喜びを味わう。

(1)喜んで自由に絵をかいたり、ものを作ったりする。

(2)身近にある材料で思いのままに表現する。

(3)見たり聞いたりしたことなどを絵にかいたり、ものに作ったりする。

(4)かいたり作ったりしたものを使って遊ぶ

(5)みんなといっしょに絵をかいたり、ものを作ったりする。

2. 感じたこと、考えたことなどをくふうして表現する。

(1)感じたこと、考えたことなどをくふうして絵にかいたり、ものに作ったり飾ったりする。

(2)身近な生活に使う簡単なものを作る。

(3)ごっこや劇的活動などに使うものを作る。

(4)いろいろな色や形に興味や関心をもち、それらを集めて並べたり組み合わせたりする。

(5)いろいろな色や形を使ってさまざまな表現をする。

3. いろいろな材料や用具を使う。

(1)いろいろな材料に親しみ、それを適切に使う。

(2)砂、積木などを使って、いろいろなものを作る。

(3)いろいろな用具をじょうずに使う。

(4)材料や用具の準備やあとかたづけをする。

4. 美しいものに興味や関心をもつ。

(1)自分や友だちの作品を見たり、それについて話し合ったりする。

(2)身近にある美しいものを見て喜び、作品などをたいせつにする。

(3)身近な環境を美しくすることに興味や関心をもつ。

以上のように示されてはいるが、具体的に何を、いつ、どのように与えるかは明らかに

されてはいない。また保育所保育指針においても大差ない。年長児の場合は、指導内容や方法なども比較的研究され、資料もあるが三才児においては、三年保育を完全に実施している幼稚園が少く、研究資料なども数が少ない状態である。そこで今回は昨年1年間にわたり、3才児の造形活動として何を与えればよいか、また3才児にはどこまで造形能力があるか、与えられたテーマや素材に対していかなる反応を示すかについて研究の結果を報告したい。

以下3才児の造形に対する反応と能力について、その実態を把握したうえで、3才児の造形活動12ヶ月として一覧表にあらわし、さらにそれを実践してみても幼児の反応や指導上の留意点にふれてみたい。

## II 研究の手続

1. 日 時 昭和45年4月10日—昭和46年3月20日
2. 対 象 香川県高松市亀岡町 財団法人幼児研究所

高松幼稚園

3才児 男 80名  
          女 70名  
                  計150名

高松幼稚園は、高松市内中心部にあり、園児は市内一円より通園、家庭環境は会社員、公務員、医師、教員等が多く非常に教育熱心で、とくに3年保育が中心となっている。

## III 3才児の造形能力

造形活動にもいろいろな種類や内容があげられるが、3才児の造形活動として、絵、粘土あそび、紙工作にしぼり、それらに対する反応と能力についてみてみると次のようである。

### 1. 絵

多くの学者たちにより、その発達についてのべられているが、実際に3才児を受持ってみて感じることは非常に個人差がはげしいことである。同じ3才児でもまだまだなぐりがきの時期を脱していないもの、象徴期のものからすでに図式期、さらには写実的な表現をするものまで中広く、また4月の入園期から翌年3月の進級期までその発達はいちじるしい。

家庭環境や生活経験、先天的なものによりその反応や能力も大きな差がみられる。兄弟の模倣や対抗心により背のびをした絵をかくものもいるし、生活経験が豊かで絵をかく動機や刺激が強いものや、いろいろな素材を使うことになれているものはのびのびと明るく元気な絵をかくようである。反対にいつも同じ素材しか与えられないものや、生活経験が貧弱なものは絵も小さく淋しいものが多いようである。また絵をかくときの色彩などについてもいろいろな素材になれているものや、環境や指導者の助言の与え方により差がみられる。

しかし3才児の絵の一般的な特徴をあげると次のようである。

- (1)頭足人および人間の表わし方をする。
- (2)自己中心的なかき方で、印象的なものが画面いっぱい大きくかかれる。

- (3)なぐりがきのものでもさかんにことばで意味づけをする。
- (4)カタログのように画面に、人、動物、花などを羅列してかく。
- (5)線がきが多く、使われる色数が少ない。

## 2. 粘土あそび

粘土あそびは幼児の大好きなあそびの一つである。3才児では粘土あそびにおいても絵におけるなぐりがき期から次第に絵になる中間という時期で、いじっている間に何か形になる時期から何か形をつくり出すという態度のあらわれがみられる。こねているうちに何らかの形になって、「○○だよ」と名づけたり、「プープー」とか「ウーウー」とかつくっているものと一体になってあそびに夢中になっている。そのうちに「○○をつくりましょう」という指示や動機づけにより活動するようになってくる。

## 3. 紙工作

紙でのあそびはやはり幼児の身近にあるもので、手にする機会も多いものである。なかでも切紙とか折紙、はり絵などが代表的なものである。はさみについては、アメリカのドル氏は2才11ヶ月で使用可能とされ、日本の牛島氏は社会生活能力検査で4才10ヶ月とあげている。これはある程度こみいった形が切れることであろうか。3才児ではほとんど全員がはさみを使うことができるようである。しかしなかには家庭で使ったことがなかったり、反対に持ったり、手前へ切りすゝんだり、危険をとまなうので正しい使いかたの指導が必要な時期である。3才児では偶然に切れたものを名づけたり、たゞ切ることに関心をもつ時期で、先をみとおして切ったり、こまかくきれいに切るのは5・6才にならないと無理のように思われる。ただこれも非常に個人差があり、男女差などもみられるようである。

折紙やちぎり紙、はり絵、立体構成などでもいじったり、もみくちやにする時期から大人のまねをして折ったり、まげたりする時期に移行してゆくが、3才児ではまだまだ手先も器用に動かないので大人がみてきれいだと思うようにはできない。しかしだんだんに自分の考えたこと、意図する方向へテーマにそって制作しようとする態度がめばえてくる。

以上のように、幼児はなぐりがき期からだんだんと心身の発達にともなって、いろいろな絵をかき、制作においても大体絵の場合と同様の順序で発達していく。とくに3才児ではその過程にあり、大人からみると絵でも制作でもわけのわからないものが多く、手先も十分にきかず、せっかくの材料を無駄にしているようにみえることもたびたびである。しかしはじめにのべたように、幼児の造形活動は幼児の心のあらわれであり、ことばであり新しいものへの創作活動なのである。

3才児は心身の発達のはげしいときであるから、体ごとぶつからせるように時には大きく身体を動かせる活動を、またあるときは心にあるものを発散させる活動を、さらにはちようど発育期にある手先の器用さを養うための作業を考えたいものである。そしていたずらに高度なものを要求することはさけ、3才児の発達段階に応じたテーマを与えて指導してゆかなければならない。3才児の場合ほとくに幼児の生活すなわちあそびをとおして造形活動がなされることが望ましいと思われる。

## IV 3才児の造形活動12ヶ月一覧表

以上のことをふまえて、3才児の造形活動12ヶ月として4月より3月まで、3才児の年

間カリキュラムや行事、季節等に合わせて1ヶ月に4つのテーマを考えてみた。

### 3才児の造形活動12ヶ月

月	番号	造形テーマ	ねらい	材料
4月	1	この色なーに？	身近かなものの色に関心をもたせる。	クレパス、色紙、身のまわり品
	2	らくがきあそび	自由に好きなようにかかせる。	つみみ紙、クレパス
	3	ならんだならんだ	ならべてあそぶ楽しさを味わわせる。	ボタン、貝がら、おはじきなど
	4	おそば屋さん	はさみの使いかたを知らせる。	うす手の画用紙、はさみ
5月	1	大きい丸・小さい丸	丸をかいてもようにする面白さを味わわせる。	クレパス、画用紙
	2	こいのぼり	自分のつくったものをかざって楽しませる。	ラシャ紙、竹、グラビア、のり
	3	粘土あそび	粘土あそびを楽しませる。	粘土、粘土板
	4	さんかく・さんかく	のりの使いかた、はりかたを知らせる。	色紙、のり、のり台、画用紙
6月	1	積木あそび	いろいろな構成を経験させる。	積木、ブロック
	2	パパとママ	身近な人物を思ったとおり表現させる。	クレパス、画用紙
	3	ちぎり紙	手先の器用さを養う。	週刊紙グラビア、のり、のり台、画用紙
	4	野菜であそぼう	身近かな素材を使ってあそばせる。	野菜、ひご
7月	1	七夕のかざり	みんなで作ったものをかざって楽しませる。	色紙、金銀紙、のり、はさみ等
	2	幼稚園バス	身近かなものをのびのびとかかせる。	ハترون紙、ポストカラー、ふで
	3	でんでんむし	マジックに興味をもたせる。	マジックインク、画用紙
	4	フィンガーペインティング	のびのび全身でぶつからせる。	フィンガーペイント、又はのり、ケント紙

8月	1	まよひみち	自由な線をかかせる。	墨汁, クレパス, 画用紙
	2	スタンプあそび	はんこあそびを楽しませる	野菜, スポンジ, 皿, えのぐ
	3	たからもの入れ	大切なものを入れる箱をきれいにかざらせる。	色紙, キャンデーの紙, のり, 箱
	4	粘土あそび	補助材料を使って粘土あそびをさせる。	粘土, 粘土板, ボタン, ヘラ, 貝がら等
9月	1	モビール	モビールの面白さを知らせる。	アルミハク, セルロイド, たこ糸, 竹
	2	お話の絵	童話をきいて感じたことをかゝせる。	色マジック, 画用紙
	3	棒ならべ	マッチのじく木を使って構成あそびを楽しませる。	マッチじく木, 色画用紙, ホワイトセメダイン
	4	手型もよう	手の形の面白さを知らせる。	えのぐ, 画用紙
10月	1	友だち	仲のよい友だちをのびのびとかかせる。	クレパス, 画用紙
	2	動物園の動物	かく前によく見たり, 話し合いをしてからかゝせる。	えのぐ, 上質紙
	3	デカルコマニー	シンメトリーのもよりの面白さに気づかせる。	えのぐ, 画用紙
	4	ビルのまど	力つよく, たてよこの線をかかせる。	黒マジック, クレパス, 画用紙
11月	1	おうちの人	家族全員を自分の感じたとうりかゝせる。	えのぐ, ロール紙
	2	みかん狩	みかん狩の楽しさをかゝせる。	クレパス, 画用紙
	3	葉っぱならべ	いろいろな葉の色, 形の美しさ, 面白さに気づかせる。	落葉, セロテープ, 色画用紙
	4	おゆうぎ会	楽しかった経験を力いっぱいかかせる。	クレパス, 画用紙, えのぐ
12月	1	型おし	いろいろなもので型おしの楽しさを味わわせる。	びんのふた, くぎ, ボタン, 粘土
	2	かざり皿	紙皿にもよるをかいてかざらせる。	紙皿, マジック, リボン
	3	点つなぎ	点と線のあそびを楽しませる。	黒マジック, 画用紙, クレパス
	4	サンタクロース	サンタクロースに夢をもってつくらせる。	赤色紙, 赤・黒つや紙, 脱脂綿

1月	1	お正月のあそび	楽しかった冬休みの経験を絵にかかせる。	色マジック、画用紙
	2	つないであそぶ	色・形をくふうしてはらせる。	色紙、色画用紙、のり、のり台
	3	のりもの	大好きなのりもの、一番のりたいのりものをかかせる	つつみ紙、墨汁
	4	フォト・モンタージュ	偶然にできるモンタージュの面白さを味わせる。	週刊紙グラビア、はさみのり、画用紙
2月	5	面づくり	面白い面をくふうしてつくらせがぶってあそばせる。	大きい袋、マジック、色紙、はさみ、のり
	2	T・Vの人気もの	大好きなT・V番組の中の主人公をかせる。	えのぐ、クレパス、ロール紙
	3	きれいな木	ていねいに根気よくはり紙をさせる。	つや紙、クレパス、のり、のり台、色画用紙
	4	ヘアバンド	自分の作ったもので身をかざらせる。	白ボール紙、わごむ、色紙等
3月	1	おひなさま	みんなで作ったおひなさまをかざって楽しませる。	びん、布、毛糸、わた、ボンド
	2	タイル画	みんなでかいたものを合せて大きな絵にしてかざらせる。	白ボール紙、マジック、ガムテープ
	3	手さげ袋	美しい手さげ袋をつくり、中にプレゼントの品を入れさせる。	色紙、のり、クレパス
	4	先生ありがとう	一番身近な先生をお別れの記念にかせる。	クレパス、画用紙

## V テーマに対する幼児の反応と留意点

実際に指導するにあたっては、年間カリキュラムの流れにそって他の領域との関連において、また3才児という発達段階をふまえたうえでの指導を十分に考慮しなければならない。

4月より順次それぞれのテーマについて、実際に指導してみて幼児の反応や留意点、反省などをのべてみる。なお紙面の都合により1ヶ月1テーマにしぼってみた。

### 4月 この色なに？

本園では、いろおんぷを使用して音楽教育をやっているもので、それらとの関連において簡単な歌を使ったり、ゲームあそびを通して色に関心をもたせてみた。幼児の身近なものの色あてごっこや、色カードなどを使ってのゲームあそびは幼児にあそびとしての興味をもたせながらスムーズに正しい色が覚えられたようである。色のなかでは、みどりと青、橙と赤、紫などはまちがえやすいようであった。また3才児にあまり沢山の色数を一度に与えたり、まぎらわしい中間色はさけて、赤、黄、白の3色からだんだんふやしてゆき、

自分の持っているクレパス（12色）がはっきりわかるようにしていった。

#### 5月 粘土あそび

市販のゴム粘土を使用、いままで家庭でも使ったことがない素材なので、なかには一部に気味わるがったり、ほんの少しだけをちぎってつまんだりするものがいたので、幼児の前で教師がみずから手の中に入れてまるめたり、のぼしたり楽しそうな場面を十分にみせてやらせてみた。幼児がだんだん興味をもちはじめたところで、形などは要求しないで十分こねたり、まるめたり、のぼしたり、たたいたりしてあそばせてみた。興にのっていきから立ち上って身体全体で熱中するものもあって、いつもの描画などの時間よりずっと長時間机からはなれなかった。

ただ市販のゴム粘土は多少においもあり、季節によってかたすぎたりやわらかすぎたり量なども制限されるので、できれば十分にこねてかたさを加減した土粘土が扱いやすいようである。しかし、土粘土は多人数分の管理がむづかしい欠点がある。

#### 6月 パパとママ

絵をかく前に幼児に、家庭のこと、とくにパパとママについて話し合いを十分にもった。3才児同志ではなかなか話し合いまでゆかないので教師から次のような質問をして答えさせ話し合いを発展させていった。

「〇〇ちゃんパパとママどっちが好き？」「パパとママどっちが大きい？」「パパめがねかける？」「パパおひげある？」「ママはどんななおしてる？」「ママのようふくどんな色？ 形？」「パパとママとちがうところはどんなところ？」等々。十分幼児の方もパパとママのイメージがつかめてきたところで絵をかきはじめた。パパとママとそれぞれに3才児なりの表現が何ともいえずほ、えましく、母親を一番大きくかいたものが多かった。幼児期は母親とのつながりが一番強いのか、母親の権力が大なのか。

同画題で4才児、5才児にもか、せてみたが年令がす、むにつれて表現は大人びてきれいになっていくが、自分の思ったとうり、感じたまゝの表現がなされている3才児の作品が一番面白かった。

#### 7月 フィンガー・ペインティング

市販されているフィンガーペイントを利用してよいが安価で害のないものを十分に与えるために、小麦粉のりに食紅やえのぐをごく少量まぜたものを作ってみた。たゞしこれは日もちしないので必要なだけ作らなければならない。

夏期だったので全員をはだかにして、木かげに出し、デコラばりの机の上で思うぞんぶん手を動かしてペインティングさせてみた。何度ものぼしたりベタベタたたいたり、ゆびでグルグルまわしたり、キャッキョッキョウさわいだり大喜びだった。

面白い作品のできたところでケント紙を水にぬらしてうつしとる方法をとったが、机の上でさんざんあそんだ後なので、材料がはみ出してしまい、あまりきれいにとれなかった。

#### 8月 スタンプあそび

幼児は大人の印かんをおす作業に興味をもっている。そこで切口の面白い野菜類を利用してスタンプあそびを楽しませてみた。れんこん、ピーマン、玉ねぎ、にんじん、さつまいも等は切口が美しいようであった。また同じ野菜でも切り方によってまたちがった面白さがみられる。スタンプ台は皿や缶のふたなどに平たいスポンジを入れ、えのぐをといて流しこんでみた。えのぐはこい目にといた方が美しくスタンプできる。うすいと野菜の水

分もでるので切口が美しくでないようである。

#### 9月 棒ならべ

マッチのじく木のみを手に入れ、染料でそめる。えのぐでもよいが染料の方が美しくあざやかに仕上る。これを数あそびに使ってみた。「どちらが多いかな?」「赤〇〇本、黄〇〇本とりましょう」等と具体物をとって数あそびを楽しませる。次に棒を色画用紙の上にならべてあそばせた。次の段階では、それにホワイトセメダインをつけてはらせてみた。3才児には、マッチのじく木が小さく細いので多少むりがあり、手ぎわよくはることがむつかしかった。

#### 10月 デカルコマニー

画用紙を2つ折りにし、ひらいて中にえのぐをポタポタおとす。それをまた2つ折りにしておさえてからひらく。幼児の目には、手品でもやっているようにみえるらしい。「ウワーきれい」「かいじゅうみたいだー」「チョウチョみたい」「大男みたい」……とか反応はいろいろであったが、大人では考えられないような想像豊かな発言があった。十分興味をもったところで各自画用紙を与えてデカルコマニーをさせてみる。みんなのデカルコマニーをみせ合って何にみえるかを発表し合った。

#### 11月 みかん狩

親子で楽しめるみかん狩を計画。バスをおりて小高い山の中腹にあるみかん山まで登る。全山みかんの木でおわれ、黄色いみかんが枝もたわわであちこちで幼児の歓声がこだました。大小や重量比較、数あそび等実物をつかって大いにあそばせ、親子でたっぷりみかんをたべてみかんの歌をうたいながらおみやげをもって下山する。おどろきと楽しかった経験は幼児に画面いっぱいにみかんをかかせた。日頃絵をかくことをしぶる幼児も真剣な顔でとりくんでいた。

#### 12月 かざり皿

大きめの紙皿を用意し、カラーマジックで自由画をかかせた。形が円であること、まわりに型おしのもようがあることなどで思わぬふちかざりなどを工夫したり、面白いかざり皿ができた。かき上った紙皿に穴をあけて細いリボンを結んでみたところ美しい壁かけとなり大よろこびであった。「これ持って帰ってママに見せていい?」と得意そうであった。失敗は思いっきりマジックの色数を与えすぎたこと。マジックの扱いがでっぴできずふたがなくなってかけなくなったり、床に色がついたりした。

#### 1月 のりもの

包装紙 $\frac{1}{2}$ 大を用意し、それに墨汁を使って幼児の大好きなのりものをかかせてみた。墨汁とふでやはけの組み合わせは、えんぴつやクレパス等とちがって大きくのびのびと元気よくかけ、作品もぐっと変化してくる。現代っ子の好みのりものは、「ひかり号」「ジャンボジェット」「アポロ」「スポーツカー」のほか、「ホーク1号」「マット1号・2号」「マットジャイロ」「サイクロン」等T・Vの幼児人気番組の中にでてくるのりものが多かった。包装紙の印刷面を利用したが、墨汁の黒1色の中に下のカラー印刷のもようや文字が生きて、意外な美しさ、面白さのある作品ができた。

墨汁は、床や洋服につくととれないので取り扱いには十分注意したい。墨汁は深目の安定性のある広口の容器に入れてはげや、ふでを使わせた。

#### 2月 ヘヤーバンド

白ボール紙を3cm巾に切り、頭に合わせてゴムでとめて頭に入る大きさにつくっておく。これに色紙等でかざりへヤーバンドをつくらせた。色紙・チョコレート・キャンデー等のつみ紙を小さな○△□◇形に切っておき幼児に自由にはらせてみた。順列や配色を考えてはっているうちに誰かが「インディアンの帽子だ」とい、出したので画用紙で羽根をつくととめてあげると、「ヤッホー、ヤッホー」とインディアンあそびに発展していった。

### 3月 タイル画

厚手の画用紙15cm四方を用意し、タイルの一片としみんなに一片ずつ絵をか、せ、それを大きな台紙にはり合わせて壁画風にまとめた。「○○ちゃんのはあれだ」「わたしのはこれよ」等とならんだ作品をみて大よろこびだった。厚手の画用紙は台紙にはる時注意しないとかがれたり、まがったりするので、よくのりをつけ上から平たくおしをしておくときれいに仕上るようである。

タイルは絵でなく、色や形等に変化をもたせたモザイク風な扱いをしてみるのも面白いのではないかと思う。

## VI 結 語

以上3才児の造形活動12ヶ月としてまとめてみたが、なかには失敗したテーマもあり、指導法や素材をかえたらと思われるものも少なからずある。また、場所や保育形態や人数の関係で平面的なデザインあそびや描画などにかたよりがみられると思う。これからは立体的な制作や思いきった素材を使って、もっと大きなそして自由な作品を扱ってみたい。

3才児に何を、いつ、どう与えたらよいか全く手さぐりの状態だが、いま3才児とともにこれらのテーマにとりくみいっしょにあそんで得たことは、

1. 3才児の特性を知り、その発達段階に応じたものを与えること。
2. 生活経験を豊かにして、かきたい、つくりたいという動機づけをしてやること。
3. 変化にとんだテーマを与え、いろいろな素材を用意して、それらになれさせること。
4. 他のあそびとの関連において行うこと。
5. ほめたり、はげましのことばをおしまないこと。

このようにまとめられる。しかしかには、よいテーマで豊かな材料を用意してもそれを指導する側に、よい作品をつくらせよう、幼児にこのテーマで造形活動を楽しませようという教育者としての意欲、情熱がなければ何にもならない。教えかたはまずくても体あたりでそれにとりくみ、3才児と心が通じ合えば、純真な3才児の「こころ」がかえってくるのではないだろうか。

### 参考文献

- |            |                               |       |
|------------|-------------------------------|-------|
| 文部省        | 幼稚園教育要領                       | 1964年 |
| 教師養成研究会    | 幼児教育部会編 幼児の絵画制作<br>学芸図書株式会社   | 1966年 |
| 幼少年教育研究所編  | 幼児教育の理論と実践 絵画製作<br>協同出版株式会社   | 1970年 |
| 山下俊郎著      | 幼児心理学 巖松堂書店                   | 1953年 |
| 根岸草笛編      | 1才から5才児のための系統的カリキュラム ひかりのくに出版 | 1966年 |
| 沢野井信夫著     | 楽しい絵あそび 創元社                   | 1966年 |
| 新しい絵の会企画監修 | 園児の絵画・製作 誠堂新光社                | 1969年 |

高松短期大学研究紀要

第 2 号

昭和47年3月1日印刷

昭和47年3月1日発行

編集発行 高松短期大学  
高松市春日町

印刷 新日本印刷株式会社  
高松市木太町2158